圏央道

自然と人をつなぐ道づくり

これからも「生物多様性に配慮した取り組み」を行っていきます

※相模原ICは2014年度開通予定。

中日本高速道路株式会社
名古屋市中区錦 2-18-19
三井住友銀行名古屋ビル 〒460-0003
TEL:052-222-1620
http://www.c-nexco.co.jp

2016.9

7 「地域性苗木」による樹林化

地球温暖化の抑制や生物多様性保全のため、高速道路のり面を積極的に樹林化しています。建設現場では、周辺に自生する種子をあらかじめ採取して、その種子から育てた「地域性苗木」を植えています。地域性苗木による植樹は、地域に自生している樹種を植えることができ、他の地域の植物との交雑を少なくすることで、地域が本来持っている遺伝子レベルの生物多様性を守ることができます。圏央道には、約二十二万本の地域性苗木を植栽しました。植栽方法は現場に合わせて様々に工夫し、のり面の勾配が厳しい場所や土壌環境が良くない場所にも、可能な限り植栽を行いました。

のり枠を工夫して苗木を植栽

植栽直後の様子

約10年後の様子

二〇一四年六月に圏央道 相模原愛川インターチェンジ(IC)～高尾山ICが、二〇一五年三月に寒川北IC～海老名ジャンクション(JCT)が開通し、東名・中央道・関越道などの放射道路がつながりました。これにより広域ネットワークが形成され、都心部への通過交通の抑制が期待されます。圏央道は高尾山や相模川に隣接した自然豊かな地域を通過するため、長年にわたり生物多様性に配慮した様々な取組みを行ってきました。ここでは、その取組みの一部を紹介します。

1 ビオトープの整備

絶滅危惧種であるモリアオガエルを保全するため、水辺と樹林が一体となったビオトープ※を創出しました。排水溝は両生類が這い上がれるように傾斜をつけて粗面構造にしました。

開通後、モリアオガエルの産卵は毎年確認され、それ以外の動植物も多く確認されています。

八王子ジャンクション(JCT)内には、こうしたビオトープを三か所整備しています。

※ビオトープ…生き物がありのままに生息活動する場所。

2 けもの道の設置

高速道路整備による動物の移動経路が分断されるのを防ぐため、高速道路下にけもの道になる通路を設けています。その後の調査で、夜間にタヌキやアナグマ等、様々な動物が移動通路として利用していることを確認しています。

3 水飲み場の設置

のり面の小段には、鳥やその他の動物のための水飲み場を設置しました。その後の調査で、夜間にイノシシやタヌキ等、様々な動物に利用されていることを確認しています。

のり面に設置した水飲み場

4 周辺環境に配慮した照明

八王子JCTでは、夜間の周辺環境に配慮し、側壁の低い位置に照明器具を設置し、周囲への光もれを最少化しています。

夜間の八王子JCTの様子

5 みんなで作る森づくり

圏央道では、地域のみなさまに高速道路の森づくりに協力いただいてきました。圏央道沿線の小学生と一緒に、地域の森でどんぐりを拾い、二～三年かけて苗木を育て、再び小学生や地域のみなさまと一緒に高速道路のり面に植樹する活動を行ってきました。

八王子西IC付近ののり面には約一万三千本、相模原IC付近には約二百本、海老名JCTには約二百六十本を植樹していただきました。

どんぐり拾いの様子

植樹の様子(八王子西IC)

植樹の様子(海老名JCT)

6 相模川の保全

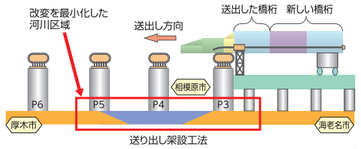
圏央道の相模川に架かる橋の建設では、相模川にクレーン車等の重機を入れずに橋桁を送り出す工法を採用し、川の流れや周辺の生態系への影響を最小化しました。

また、周辺河川区域内にはタコノアシやカワヂシャなどの絶滅危惧種が確認されたため、工事の施工ヤードから外し保護しました。

相模川の中に重機を入れず橋桁を送り出す様子

タコノアシ

カワヂシャ



送り出し架設工法